

高等専門学校と高等専門学校図書館

中川 潤紀

1962（昭和37）年度に設置された高等専門学校（以下、高専と略す）は、「中学校卒業程度を入学資格とする5年間（商船に関する学科は5年6か月）の一貫教育を行なう技術者養成のための高等教育機関」（学芸百科事典，旺文社，1974.8，p.152）であり，その教育目的は，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成すること」（学校教育法第115条）である。高等専門学校設置基準の第23条では「校舎には，少なくとも次に掲げる専用の施設を備えるものとする」として，第3号で「図書館，保健室，学生控室」を規定している。高等専門学校図書館（以下，高専図書館と略す）は，一般科目と専門科目に対する学習支援をしてきたが，専攻科の整備にともなって，研究支援も期待されてきている。高専の学生は中学校卒業後に入学するため，高専図書館では，学校図書館で実施されるような読書指導を行い，全人的教育を施すとともに，学生の教養を深める必要もある。したがって，高専図書館には，教育・研究を支援する大学図書館，および，教育課程の展開に寄与し健全な教養を育成する学校図書館，の両者の機能を兼ね備えることが求められている。従来，高専図書館については，個々の論考や事例が発表されているが，全体的な分析・考察は十分には行なわれていない。

そこで，本研究では，1960年代から現在までの高専図書館を対象として，高専の歴史的経緯を踏まえた上で，高専図書館の機能と役割について分析・考察した。その際，大学図書館と学校図書館の機能に注目して分析した。研究方法は，文献調査と訪問調査を用いた。

研究の結果，以下の事柄が明らかになった。

- 1960年代の高専図書館は，図書館施設（建物）が未整備のため，高専校舎内の一室を図書室とすることで，その機能をまかなっていた。そのため，専有面積（スペース）が小さく，書庫に関する問題も多かった。1960年代後半から，高専図書館は，学生会館の機能を含む多目的な複合施設の図書館センターとして建設された。その結果，図書館センターの管理，責任体制が問題となった。
- 1980年代中頃から，高専図書館の機械化が開始された。当初は各校で独自システムを作成し，貸出業務やOPACの電算化が行なわれた。また，この時期には，視聴覚資料として，CDやビデオ等が導入されるようになった。
- 1990年代には，学術情報センター（NACSIS）に接続し，NACSIS-CATを利用する高専図書館が現れた。高専図書館では，電子ジャーナルの導入が検討され始めた。しかし，予算削減の影響もあり，他の高専との共同購入も行なわれた。さらに，長岡技術科学大学と共同でコンソーシアムを形成し，電子ジャーナルの共同購入もなされている。
- 1992（平成4）年以降，高専に専攻科が設置されるようになり，高専の研究の側面が強化された。専攻科の設置を受けて，高専図書館の蔵書の充実が検討され始めた。高専図書館では，長岡技術科学大学との共同コンソーシアムの導入，英語多読授業用の資料整備，学生図書委員会の活動，読書感想文コンクールの実施，夜間開館・休日開館の実施，図書館の地域開放，等が行なわれている。近年，高専図書館の資料費と担当職員（司書の有資格者）は減少しつつあるが，図書館サービスはより高度なものが求められている。
- 高専図書館には，専門教育・研究の支援と教養の育成といった，大学図書館と学校図書館の機能があり，資料費や職員が減少する中でも，高度なサービスの提供が求められている。高専図書館は，全国的な組織を築くことで横の連携と問題共有を図り，各館の独自性を維持しながら，共通基盤を踏まえた運営を進めることが求められている。

（指導教員 大庭 一郎）